〈日本語・日本文化研修留学生修了報告書〉

女性話者による敬語表現の使用

―ドラマ「華麗なる一族」における発話の分析から―

インタン・プトリ・イスワント

要　旨

本稿は女性話者による敬語表現の使用及び要因について調査したものである。敬語は主題になる人物や話し相手に対する敬意の表現である。敬語表現の使用においては幾多の要因がある。その要因の一つは性別である。そのため、女性は敬語をより積極的に使用する。本稿のデータはドラマ「華麗なる一族」から収集した。そのデータを青木（2007）による敬語の分類の理論と東（1997）による女性による敬語の使用の要因の理論で分析した。

その結果、女性話者の敬語表現は「女性は敬語表現を使用すべき」、「低い社会的地位」、「社会的地位を高めるため」、「女性らしさの象徴」という４つの要因に左右されると考えられる。これらの要因は年代・話し相手の性別に影響を受けていると思われる。その他、二つの要因を保有する発話があったが、これはコミュニケーションにおいて、複数の意図が隠されている表現であると言える。

【キーワード】

敬語表現、女性、言語学、コミュニケーション、ドラマ

1　はじめに

日本では敬意をことばで示す際、敬語を使用する。敬語とは話の主題になる人物や話し相手に対する敬意を示すために用いられる言語表現である。また、敬語表現は話し相手に対する配慮として使用されている。敬語は一般的に尊敬語、謙譲語、丁寧語の３種に分類される。尊敬語は話し相手に対する敬意、または話し相手や第三者を立てるために使用される。謙譲語は話者がへりくだり相手を敬うために用いられる表現である。丁寧語は丁寧さを示す表現であり、「～です」「～ます」体で表現される。

敬語表現の使用は年齢・社会的立場・親密度・場面・学歴などの様々要素と関係している。また、性別も敬語表現の使用に大きく関わっている。井出

(2004, 184) によると、男性より女性の方がよく敬語表現を使用するという。これは、日本では男性が社会を動かすという理念が日本社会に根付いているため、今日においても男女の社会的地位の差が大きく見られるためである。そのため、女性は丁寧な態度や言葉で表現することが期待されているのである。この理念の土台になるのは孔子の教え[1)]に見られる「女性は常に美しい言葉を発するべきだ」という思想である。しかし、女性の敬語使用は男女の社会的地位の差という理由ではない。なぜなら、その研究の対象となる女性たちの多くは専業主婦だからである。彼女らは狭い世界の中で存在感を示す必要がある。だからこそ、丁寧な言葉遣いで話すことにより、自分が上品で地位の高い家庭の出身であるという育ちの良さを証明することになるのである。本稿では、1960年代を舞台にした「華麗なる一族」を対象とし、その中に登場する女性が使用する敬語表現の使用回数を形式に分けて統計し、女性の登場人物による敬語表現の要因の推移を考察していく。このドラマを調査対象とした理由は、女性の登場人物が親疎関係にかかわらず敬語表現を使用するためである。

２　敬語表現

敬語表現においては、人間関係・場・意識・内容・形式という５つの要素が大きな役割を果たしている。話し相手や話題の人物は誰で、社会的に高い地位を持つ人か、親しい人か、また、公的な場面か、自宅での会話か、さらに、その場の状況や雰囲気はどのようなものかが、敬語表現に大きく関わっている。この５つの要素は、蒲谷 (2009、4) により以下のように説明されている。

１．人間関係

敬語表現における「人間関係」は３つの観点から考えられる。まず、表現主体が自ら認識した「自分」、次にその表現の「相手」、そしてその表現に登場する「話題の人物」である。人間関係の捉え方に対して、次の３つの軸を中心に考える。まずは、上司・部下または店員・来客等といった「上下関係」、次に親しい・親しくないといった「親疎関係」、そして社会的常識から客観的に位置付けられる立場や固定的な立場を持つ「立場・役割」がそれにあたる。

２．場

敬語表現における「場」は、表現主体が認識する時間的・空間的な位

置として規定される。これらには敬語表現を行う経緯・文脈、状況や雰囲気を含む「いつ・どこで・どんな状況で」を指す。この敬語表現における「場」では改まり・くだけという２つの軸を中心にする。

３．意識（きもち）
コミュニケーションを考える際の重要な柱のひとつであり、なぜ、なんのために、どのような気持ちでコミュニケーションをしているのかというのは意識（きもち）と呼ぶ。

４．内容（なかみ）
コミュニケーションにおいては、なにかを伝えたいから、ということが根本にある。その「何か」を「内容（なかみ）」と呼ぶ。敬語表現においても、この「何か」は重要な柱になる。

５．形式（かたち）
敬語表現においてはどういう形式（かたち）で伝えるのかということも大切である。この形式（かたち）は、敬語だけではなく、語・文・文章・談話のレベル、音声や表記の点、媒体の問題、さらに、関連する非言語行動も含むものである。

2.1　敬語の種類

敬語の種類は、尊敬語・謙譲語・丁寧語の３種類による分類が一般的であるが、「敬語の指針」では、尊敬語・謙譲語 I・謙譲語 II・丁寧語・美化語の５種類に分類されている。これらの５種類は、従来の３種類とは、以下のように対応する。（青木，2007）

［表１］５種類・３種類の敬語の対応

５種類		３種類
尊敬語	「いらっしゃる・おっしゃる」型	尊敬語
謙譲語 I	「伺う・申し上げる」型	謙譲語 [2)]
謙譲語 II	「参る・申す」型	
丁寧語	「です・ます」型	丁寧語
美化語	「お酒・お料理」型	

本稿では、敬語の働き方または適切な使い方をより詳しく理解するため、５種類の敬語により分析していく。

2.2　５種類の敬語の分類

敬語は、言葉を用いる人の、相手や周囲の人やその場の状況についての気持ちを表現する言語表現として、重要な役割を果たす。青木が記した『敬語の指針』（2007：14）では、敬語は以下の５種類に分類される。

１．尊敬語

相手側または第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるものである。尊敬語の形は次のとおりである。

・特定形　－　いらっしゃる、おっしゃる、なさる、召し上がる、くださる、見える
・お/ご+動詞+になる
・お/ご+動詞+くださる
・お/ご+動詞+なさる
・受け身の「～られる」

２．謙譲語 I

自分側から相手側または第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの。謙譲語 I 形は次のとおりである。

・特定形　－　伺う、申し上げる、存じ上げる、差し上げる、頂く、お目にかかる、御覧に入れる、拝見する、拝借する
・お/ご+動詞+する
・お/ご+動詞+申し上げる
・～ていただく
・お/ご+動詞+いただく

３．謙譲語 II

謙譲語 II あるいは丁重語とは自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁重に述べるもの。

謙譲語 II 形は次のとおりである。

・特定形　－　参る、致す、申す、おる、存じる
・お/ご＋いたす
・名詞　－　小社、愚見、弊社、拙著など

４．丁寧語

話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。丁寧語では「です」「ます」を付けて述べ、留意を要する点は特にない。また、他には形容詞＋ございますという形がある。

５．美化語

ものごとを、美化して述べるもの。美化語のほとんどは名詞あるいは「名詞＋する」型の動詞であり、一般に「お酒」「お料理（する）」のように「お」を付ける。

2.3　敬語使用に関する留意すべき事項

『敬語の指針』（青木, 2007）によると、敬語使用に関する留意すべき事項は以下のとおりである。

１．方言の中の敬語の多様性

方言の敬語は全国共通語の敬語とは異なる場合も多く、それらは言語表現の形や意味の上での多様性だけでなく、それらの使い方の上での多様性を持っている。方言のこうした多様な敬語は、方言一般と同様、その地域に既に定着したものであり、そこでの言語生活に欠くことのできない、多様で豊かな言語表現を作り上げる。また一方では、全国共通語の尊敬語・謙譲語等に当たる言語形式を備えず、敬語が希薄だとされる地域もある。

２．世代や性による敬語意識の多様性

言葉遣いや言葉についての考え方は、世代によってあるいは性別によって異なる場合が少なくない。敬語の使い方や敬語についての考え方もその例外ではない。例えば「植木に水をあげる」と言うか「植木に水をやる」と言うかについて、文化庁「国語に関する世論調査」（平成18年２月調査）においては「あげる」と言う男性回答者の割合は、10代・20代では30～40％代であるのに対して、50代・60代以上では5～10％代であって世代による違いが見られる。同じ質問について女性回答者は、多くの世代において「あげる」と答えた人の割合が男性より高いが、同時に男性と同様の世代差も見られる。また普段「弁当」という言葉に「お」を付けるかどうかについて「お弁当」と言うと回答した人の割合はすべての世代を通じて、男性は10～30％代にとどまるのに対して、女性はすべての世代で約70～80％代の高い割合である。

2.4　女性による敬語表現の要因

東（1997, 89）によると、女性が敬語表現を使用する要因として以下の４つの可能性があると述べられている。

１．女性は男性より社会的地位、階級といったものに敏感である。なお、話者（女性）が丁寧な言葉遣いを使用することにより、自分の社会的地位を向上させることになる。特に、職業を持たない女性は、言葉が唯一の社会的地位を示す道具となる。

２．女性のほうが標準的な言葉を話すという社会的な圧力、期待がある。ある意味では､女性は丁寧な言葉遣いの使用を要求されるのに対して、男性は要求されないという。つまり、社会的には男性よりも、女性に正しい又きちんとした行動を期待している。

３．女性は社会的にみて男性より低い位置にあるとみられている。このため、女性は自分の地位を守るため、そして相手の気持ちを守るため、相手（男性）に丁寧になり、標準的な言葉または敬語表現を使うようになる。

４．女性にとって､敬語は女性らしさの象徴である。標準的でない言葉は、肉体性、強さなど男らしさの象徴である。したがって、女性はそれを避けて標準的な言葉または敬語表現を使うようになる。

３　調査方法

本稿で使用される調査方法は次の手順により行った。まず、調査対象となるドラマ「華麗なる一族」（2007年放送）を視聴し、ドラマの中で使用された女性による敬語表現を抽出した。調査対象者は、ドラマに登場した女性話者（５名）である。次に、それぞれの敬語を「敬語の指針」で分類された５種類の敬語により分析し、場面・相手などによりどのような要因があるのかを分析した。最後に、分析したデータについて考察を加えた。

ドラマ「華麗なる一族」は、Wikipediaによると、「時代設定は1960年代の神戸」であり､「物語は万俵財閥が神戸の岡崎財閥、阪神銀行は岡崎財閥の中核企業である旧神戸銀行、そして1965年に神戸銀行の融資系列であった山陽特殊製鋼で発生した山陽特殊製鋼倒産事件をモデルにしたものといわれている」。そして、このドラマは「高度経済成長を背景に、大富豪の銀行家一族、万俵家一族を軸に政財界にわたり富と権力を追い求める父と息子の野望と愛

憎を描く」とある。

なお、ドラマ「華麗なる一族」を選定した理由であるが、本ドラマの中では敬語表現の使用が上下関係やウチ・ソト関係といった場面設定にとどまらず、親子関係や身内関係の中でも頻繁に見られる。特に、ドラマに登場する女性話者は常に敬語表現を使用している。したがって、ドラマ「華麗なる一族」の女性話者が敬語を使用するその要因及び敬語の種類を分析することが可能だと考えたためである。

４　調査結果

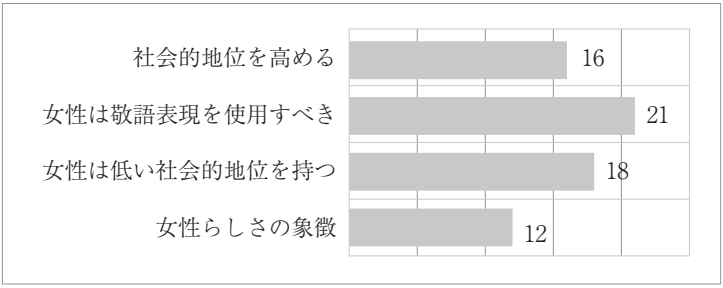
対象となるドラマ「華麗なる一族」は1960年代の関西地方を舞台にした1973年に発行した小説のドラマ版である。調査データの対象となった５名の女性話者の年齢は20代が２名、30代が２名、50代が１名である。また、話し相手または動作の主体の人物である７名の女性の年齢は、20代が３名、30代が３名、50代が１名であるのに対し、４名の男性は30代が２名、40代が１名、60代が１名であった。なお、女性話者の社会的地位または立場は主人公の配偶者・部下・妹・母であった。さらに、話者相手の性別から分析した結果、女性に対する敬語表現の発話は34データ（55%）であるのに対し、男性に対する敬語表現の発話は28データ（45%）であった。そして、発話の「場所」から見る敬語表現においては、全てのデータで公的な場面はなく、設定された場所・場面はダイニング・部屋・自宅であった。発話の媒体においては、61データが口頭であり、１データが電話における発話であった。

次に、敬語表現が見られた発話62のデータにおいて、100の敬語表現が見つかった。詳しく分析した結果、尊敬語（なさる、いらっしゃる、お～になる、お～ください、おっしゃる、申し上げる、くださる、ご存じ、～られる）は43データであり、謙譲語Ⅰ（お～になる、申し上げる、～ていただく、伺う、頂く、差し上げる、ご覧）は12データであった。また、謙譲語Ⅱ（いたす、参る、お～いたす、おる）は８データであり、丁寧語の「ござる」は２データ、美化語（お～、ご～）は35データであった。最も使用されていた敬語表現は尊敬語であった（表２参照）。

［表２］使用された敬語表現の回数

NO	敬語の種類		データ
1	尊敬語	なさる	9
		いらっしゃる	6
		お～になる	9
		お～ください	1
		おっしゃる	7
		申し上げる	1
		くださる	3
		ご存じ	3
		～られる	4
2	謙譲語Ⅰ	お～にする	1
		申し上げる	2
		～ていただく	2
		伺う	1
		頂く	1
		差し上げる	4
		ご覧	1
3	謙譲語II	いたす	2
		参る	3
		お～いたす	1
		おる	2
4	丁寧語	ござる	2
5	美化語	お＋名詞	24
		ご＋名詞	11
合計			100

さらに、東（1997）による四つの要因で分析した結果、「話者の社会的地位を高めるため」という要因は16データ、「女性は敬語表現を使用すべき」という要因は21データがあり、「女性は低い社会的地位を持つ」という要因は18データ、そして「女性らしさの象徴としての敬語」という要因は12データが見つかった。一番多かったのは「女性は敬語表現を使用すべき」という結果であった。（図１参照）。なお、４データで一回の発話で二つの要因が見られた。



［図１］東による敬語表現の使用の要因

表３では５名の女性登場人物の話し相手の性別・年齢別に使用された敬語表現を分析した。Sは尊敬語、K_1は謙譲語Ⅰ、K_2は謙譲語Ⅱ、Tは丁寧語、Bは美化語を示す。

［表３］話し相手の性別・年齢別使用敬語表現の回数

話者(対象者)＼相手	女性							男性				全員
	22歳（主人公の妹次女）	24歳（次男の妻）	29歳（主人公の妹長女）	30歳（主人公の妻）	32歳（主人公の元彼女）	39歳（秘書）	54歳（主人公の母親	31歳（主人公の弟次男）	34歳（主人公長男）	44歳（長女の夫）	60歳（主人公の父親）	
22歳（主人公の妹次女）	x		K_2:1			T:1 B:1			B:1			K_2:1
24歳（次男の妻）		x				S:3 K_2:1 T:1 B:3	S:2 K_1:1 K_2:1					
30歳（主人公の妻）				x		S:2 T:2 B:1			S:1 K_1:1 B:1	S:1 K_1:1 B:1	S:1 T:1 B:1	
39歳（秘書）	S:5 T:4 B:2	K_1:1 B:3	S:1 T:1 B:1	B:1	S:4 K_1:3 T:4 B:4	x	S:3 K_2:1	S:1 K_1:1	S:4 K_1:1 T:5 B:3	S:2 K_1:1 T:1 B:1	S:4 K_1:2 K_2:1 T:4 B:4	
54歳（主人公の母親）		S:2 T:2		S:1 T:1 B:1	S:2 T:1 B:2	S:1 K_1:1 K_2:1 T:1 B:1	x				S:1 T:1	T:2 B:2

表３を見ると、女性の登場人物の中で最も若い22歳の主人公の妹（万俵家の次女）二子は、他の登場人物に比べ、敬語表現の使用回数が最も少ない。続いて、万俵家の次男の妻、万樹子（24歳）が敬語表現を使用する相手は万俵家の秘書と姑である主人公の母親のみであった。次に、30歳である主人公の妻の敬語表現の使用は社会的地位がより低い秘書、親疎関係において最も近い人物である主人公（夫)、「ソト」の人間である義理の兄、そして社会的地位がより高い主人公の父親である。敬語の使用回数が最も多いのは万俵家の秘書相子（39歳）である。これは、他の登場人物に比べ、社会的地位が最も低いため話し相手に対して敬語を多用していると考えられる。主人公の母親の寧子（54歳）は、社会的地位がより低い秘書に対して敬語使用がもっとも多い。そして、嫁また主人公の元彼女といった万俵家の「ソト」の人間に対して敬語を使用しているが、親疎関係が近い夫に対しても敬語を使用していた。

５　調査結果の分析及び考察

上記で述べたように、ドラマ「華麗なる一族」による女性の発話で使用された敬語表現は尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、丁寧語、美化語である。その中で最も使用されていたのは尊敬語であった。尊敬語は相手を立てる目的であり、このドラマでは改まった場面やくだけた場面にも関わらず女性話者が相手を立てる傾向があると考えられる。場所・場面に関わらず、女性話者が常に敬語表現を発し、話し相手または主体となる人物についても高める傾向が見られる。つまり、話者は社会的常識から客観的に自らの立場を位置づけることが示唆される。

次に、敬語表現の使用の要因に対する調査結果では、最も多い要因として「女性は敬語表現を使用すべき」という要因が挙げられた。これは、話者は社会的立場の認識度が高い上、社会的に上層階級の貴族の一員であるため、敬語表現の使用数に相関性が見られた。なお、「女性は低い社会的地位を持つ」という要因には相手の性別と敬語表現の関係性が見られる。最も使用された敬語表現が尊敬語であり、話し相手の性別の割合は男性が高いという二つの点は「女性は低い社会的地位を持つ」という要因に関わっていると考えられる。女性話者は話し相手である男性に対して常に敬語表現を使用する。夫婦関係や兄弟関係にも関わらず、息子に対する母親の発話においても敬語表現が見られた。

しかし、女性の話者相手に対しては、「社会的地位を高める」という要因が関わっていると考えられる。同性に対して、自分の社会的地位を高めたい、あるいは社会的地位の高さを強調したいという要因が働くことが明らかになった。これは、その場に対する自分の存在を強調し、主体となる人物に対して必要性の高い人だと強調したいという意識（きもち）を持つということである。

最後に、「女性らしさの象徴」という要因は美化語に関わっていると考えられる。美化語は人物を高める、低める等とは関係なく、物事を美化する。また、物事に対する「美化」ではなく、その言葉や言葉遣いをきれいにするために使われる敬語である。したがって、対象者の「美化」に対する認識が高く、自分をより「美しい」または「品がある」女性に見せるため、美化語を使用する。つまり、女性において敬語表現が使用される要因はそれぞれの人物の価値観や社会的地位に対する認識に大きく反映されていると考えられる。

5.1　敬語表現における女性が敬語表現を使用すべき要因

以上の調査結果から、もっとも多い要因は「女性は敬語表現を使用すべき」であった。この要因から社会的には男性よりも、女性に正しい、またはきちんとした行動を期待しているという考え方がある。以下、日本語の原文とインドネシア語[3)]の翻訳の会話例を見ていく。

会話１－日本語原文
大介：銀平に言われたよ。鉄平は爺さんにそっくりだった。
寧子：鉄平さんとは仲直りなさったのではなかったのですか。
大介：誰もわかってはくれないさ。私の戦いの重さを、な。

会話１－インドネシア語翻訳
Daisuke : Ginpei bilang padaku. Bahwa Teppei sangat mirip dengan ayah.
Yasuko : Bukankah sudah berdamai dengan Teppei-*san*?
Daisuke : Tidak ada yang dapat memahami. Memahami beratnya pertarunganku.
（「華麗なる一族」第６話, 00:40:32-00:40:51）

会話１は万俵家の世帯主である大介とその妻・寧子の会話である。この夫

婦の会話では敬語表現が見られる。夫である大介は男性であり、男性は社会的に丁寧な表現の使用が要求されていない。したがって、妻・寧子に対して「普通形」を使用している。一方、寧子は女性であり、社会的に丁寧な表現の使用が期待されている立場である。それに加えて、寧子は高い社会的地位を持ち、上級階級の家庭で育てられた。したがって、夫・大介に対して「なさる＋過去形」の尊敬語を使用している。つまり、寧子は社会的に敬語表現の使用の圧力や期待を意識しており、親疎関係が近い夫にもかかわらず、敬語表現を使用しているのである。

一方、インドネシア語の翻訳では、寧子の発話には接尾辞「-kah」がある。「-kah」は確かめるための標準的な（Ragam Bahasa Baku）接尾辞である。また、この翻訳に使用された「berdamai」はフォーマルな語彙である。

・Ragam Bahasa Baku（丁寧表現）

Bukan<u>kah</u>/sudah/berdamai/dengan/Teppei-*san*?

ではなかったのですか/（過去形）/仲直り/とは/鉄平さん

・Ragam Bahasa Nonbaku（私的表現）の場合

Bukannya/sudah/berbaikan/dengan Teppei-*san*?

ではなかった/（過去形）/仲直り/とは/鉄平さん

5.2　敬語表現における女性の社会的地位を高める要因

次に、女性自身の社会的地位を高めるために使用される敬語表現には、話し相手との関連性が挙げられる。つまり、女性が丁寧な言葉遣いを使用することにより、自分の社会的地位を向上させることにつながるわけである。以下、日本語の原文とインドネシア語の翻訳の会話例を見ていく。

会話２－日本語原文

相子：銀平さん、安田万樹子さんとのお見合い、<u>進めさせていただきます</u>からね。

寧子：銀平さん、本当にいいの？

銀平：所詮ぼくは、万俵財閥のための駒ですから。

寧子：銀平さん…　相子さん、そんなに急がなくても。

相子：まあ、寧子さんがなんにも<u>お出来にならない</u>から、私が苦労してるというのね。

早苗：相子さん、お母様に何をおっしゃるのです？

相子：じゃ、寧子さんは万俵家の妻としていったい何がお出来になるの？実印や登記書類どちらにあるかご存じ？万俵家の毎月の経費はどれぐらいかかるかご存じ？おっしゃってくださいな！

会話２－インドネシア語翻訳

Aiko　: Ginpei-*san*, saya akan melanjutkan urusan perjodohan dengan Yasuda Makiko-*san*.

Yasuko: Ginpei-san, apa sungguh tidak apa-apa?

Ginpei　: Toh, aku hanyalah pion dari zaibatsu keluarga Manpyo.

Yasuko : Ginpei... Aiko-san, kan tidak perlu secepat itu...

Aiko　: Huh, karena Yasuko-san tidak bisa melakukan apa-apa, maka saya yang harus bersusah payah.

Sanae　: Aiko-*san*, apa yang Anda katakan pada ibu?

Aiko　: Kalau begitu, sebagai istri dari keluarga Manpyou bisakah Anda sebutkan hal apa yang bisa Anda lakukan? Apakah Anda tahu di mana tempat menyimpan stempel perusahaan dan dokumen regristasi? Apakah Anda tahu berapa besar pengeluaran per bulan keluarga Manpyou? Ayo katakan!

（「華麗なる一族」第２話, 00:15:12-00:15:45）

会話２は、万俵家の秘書相子、万俵家の次男銀平、銀平の母親寧子、そして万俵家の嫁である早苗の会話である。ここで、秘書である相子は「進む＋～させる」という使役形と謙譲語 II の「いただく」を組み合わせた「～させていただく」という許可を求める丁寧な依頼表現を使用した。この場合、あくまでも社会的地位が低いゆえに、敬語表現を使用している。しかし、次の発話では、まったく違う待遇意図がみられる。「お+できる+になる+否定形」の尊敬語の形が使用されたが、文末には丁寧語の「です・ます」体が付加していない。次の発話も同じようなパターンが見られる。「お+できる+になる」、「ご存じ」、「おっしゃる+ください」といった尊敬語が使用されており、話し相手は社会的地位が高い万俵家の世帯主の妻である寧子である。しかし、尊敬語を使用しているにもかかわらず、文末には「です・ます」体が付加しておらず、その代わりに女性語の「～の」と「～な」が付加している。

ここでは万俵家の事情をすべて管理している秘書である相子は、万俵家の嫁である寧子に対して皮肉な発言を言っているのである。しかし、相子は自

分の立場があり、あえて相手を見下すために相手を高めているわけである。

一方、インドネシア語の翻訳では、日本語とは異なり、丁寧表現は人称代名詞に見られる。日本語では主語の省略が普通であるが、インドネシア語の翻訳では、主語が極めて重要である。ここでは、「Saya（私）」の一人称代名詞が使用されており、二人称代名詞「Anda（あなた）」は丁寧表現として付加された。

5.3　敬語表現における女性の社会的地位が低い要因

女性は社会的にみて男性より低い位置にあるとみられている。このため、女性は自分の地位を守り相手の気持ちを慮った表現を使用することを心掛ける。そのため、相手（男性）に丁寧で標準的な言葉または敬語表現を使うようになる。したがって、この要因は相手を高めるための尊敬語の使用と大きく関わっている。以下、日本語の原文とインドネシア語の翻訳の会話例を見ていく。

会話３－日本語原文
大介：鉄平はどうした？
早苗：申し訳ございません。それが今日お昼までお仕事なさっていたそうで。
大介：元旦まで仕事か…

会話３－インドネシア語の翻訳
Daisuke : Di mana Teppei?
Sanae　: Saya mohon maaf. Sejak siang masih ada pekerjaan yang harus diselesaikan.
Daisuke : Kerja sampai malam tahun baru…
(「華麗なる一族」第１話, 00:14:30-00:14:50)

この会話は万俵家が元旦を祝うためにレストランで食事するという設定である。しかし、長男である鉄平がまだ来ていないため、父親である大介は鉄平の妻・早苗に尋ねた場面である。ここでは、万俵家の世帯主である大介は万俵家の中で最も高い社会的地位に位置している。したがって、大介は早苗に対して「普通形」を使っている。一方、早苗は美化語の「申し訳ございません」、「お+昼」・「お+仕事」や尊敬語の「なさる」を使用している。ここで

は、早苗は相手である大介、そして主体となる人物である鉄平より社会的地位が低いため両者を高めているのである。

一方、インドネシア語の翻訳では、丁寧表現の謝罪がみられる。相手に対する敬意を表すため、「主語+mohon maaf」が使用されている。

・Ragam Bahasa Baku（丁寧表現）
Saya/mohon maaf
私/申し訳ございません
・Ragam Bahasa Nonbaku（私的表現）の場合
Saya(Aku)/minta maaf
私（あたし、僕）/すみません

5.4　敬語表現における女性らしさの象徴

標準的でない言葉は､肉体性や強さなど男らしさの象徴となる場合がある。したがって、女性はそれを避けて標準的な言葉または敬語表現を使うようになる。この要因は言葉を美化する敬語である「美化語」に関わっている。以下、日本語の原文とインドネシア語の翻訳の会話例を見ていく。

会話４－日本語原文
早苗：来年からはここに来るのをお止めにしませんか？外国式の正式のディナーだと、子供を先に食事をさせられ、親とお食事できないなんて可哀想。それに…どうしてお父様は平気であんなことがお出来になるのですか？
鉄平：あ…そうだな

会話４－インドネシア語の翻訳
Sanae　: Bagaimana jika mulai tahun depan kita tidak menghadiri acara ini lagi saja? Makan malam ala barat... Kasihan anak-anak, harus makan terlebih dulu tanpa bisa makan malam bersama orang tua mereka. Dan lagi... Bagaimana bisa Ayah melakukan hal seperti itu?
Teppei: Ah, iya benar juga.

（「華麗なる一族」第１話, 00:25:03-00:25:32）

会話４は主人公・鉄平とその妻・早苗の会話である。早苗の発話では、謙譲語Ｉの「お+止める+にする＋否定形」、尊敬語の「お+できる+になる」、美化語の「お+食事」が使用されている。

ここでは、鉄平は「普通形」を使用するのに対し、早苗は敬語表現を使っている。これは、敬語表現は相手に対する敬意を表すためだけではなく、早苗が女性らしさの表現として使用していると考えられる。鉄平は男らしさを普通形で強調する一方、早苗は女性らしさを敬語で強調する。

一方、インドネシア語の翻訳では、丁寧表現と私的表現の差が見られる。ここでは「hadir（来る/出席する）」の名詞に接頭辞「meng-」・接尾辞「-i」が付加され、表現がより丁寧な表現になっている。

5.5　二つの要因を保有する発話

調査結果の中では、１回の発話で二つの要因を持つ発話が見られた。以下の会話を見ていく。

会話５

寧子　：万樹子さんは遠慮なく召し上がってくださいね。もうわたくしたちの家族なんですから。

万樹子：ありがとうございます、お母様、お父様も。現蓄財すべてヨーロッパから取り寄せてくださり、あんな立派な新居まで建てていただいて、あたしとても感激しておりますわ。

（「華麗なる一族」第４話, 00:15:50-00:15:59）

この会話は万俵家の嫁・寧子と万俵家の次男の妻・万樹子との会話である。万樹子は万俵家の新メンバーである。この会話では「女性は敬語表現を使用すべき」と「社会的地位が低い」という二つの要因が含まれている。嫁であり「ソト」の人間であった万樹子は、姑である話し相手より社会的地位が低い。そこで、敬意を表すため、尊敬語の「くださる」、謙譲語Ｉの「～ていただく」、謙譲語IIの「おる」を使用している。しかし、この発話は相手を立てるためではなく、「感謝」の意図が含まれている。したがって、感謝のことばを丁寧に表すため、敬語表現を使用しているのである。

5.6　舞台となった年代と敬語表現の使用の関連性

このドラマは1960年代を舞台にしている。60年代～70年代の日本の文学では、女性は「上品」「優しい」「か弱い」というイメージが持たれている。ドラマや小説等で使用された表現は必ずしも私たちが生きている現実社会でも使われているわけでない。しかし、文学は私たちが生きている社会の描写であり鏡でもある。つまり、この年代の日本では、「女性は上品で優しい」という概念を持ち、さらに女性は正しく美しい行動や言葉遣いを使うことが求められていたということである。したがって、このドラマの登場人物は関西を舞台にしているにもかかわらず、標準的な表現に対する意識が強く、丁寧な言葉遣いが多用されていたと言える。

5.7　美化語の使用

調査結果では、最も多く使用されていた敬語は尊敬語であるが、美化語の使用は二番目に多いということがわかった。美化語は相手を高めるか自分を低めるかに関係なく、あくまでも言葉や言葉遣いを美化するための敬語である。このドラマでは、「お時間」「お昼」「お仕事」「お部屋」「お写真」「お食事」「お話」「ご趣味」「お力」「ご自分」「お忘れ」「ご関係」「お城」「ご不幸」「お寂しい」「お喜び」「ご用件」「お酒」「お誤り」「ご様子」「おつもり」といった美化語が使用されていた。なお、このドラマでは男性話者は美化語をほとんど使用していないことも特記すべき事項である。

美化語と女性の関連性は、室町時代初期の「女房言葉」にまで遡る。美化語の特徴のひとつは表現を丁寧に表すため、「お」を付けて作ることである。そして、その表現方法は現在でも残っている。

美化語は単に表現を美化するわけではなく、相手に対する敬意を表わすための美化語もある。例えば、「お時間」は「あら、どうなさったの。明かりをつけないで。そろそろお時間ですわよ」という発話から話し相手の「時間」を指し、相手を立てる美化語であることがわかる。しかし、「とにかく、鉄平さんが来たんですから、お写真…」の「お写真」はあくまでも女性として上品な言葉遣いを表現するための美化語である。

6　まとめと今後の課題

本稿では、ドラマにおける女性による敬語表現の使用について調査した。その結果、女性話者の敬語表現は「女性は敬語表現を使用すべき」、「低い社

会的地位を持つ」、「社会的地位を高めるため」、「女性らしさの象徴」という４つの要因により反映されていることが明らかになった。これらの要因は年代や話し相手の性別に影響を受けていると思われる。その他、二つの要因を保有する発話は、コミュニケーションにおいて、複数の意図が隠されている表現であると考えられる。なお、1960年代の日本の文学では「女性は上品」というイメージがあるため、このドラマの女性人物は敬語表現を頻繁に使用していた。また、美化語の使用はあくまでも言葉を美化するためであるが、相手に対する敬意または相手を立てるための意図が含まれる場合もあった。女性による敬語表現の機能の変化については、今後の研究で引き続き具体的な会話例を見ながら分析していきたい。

謝辞

本稿の作成にあたり、詳細にわたりご指導いただきましたアドバイザー教員の林翠芳先生、並びに大塚薫先生に心より感謝の意を申し上げます。

注

1)　儒教は孔子の教説を中心とする思想であるが、日本では、江戸時代に儒教の普及が迅速に拡大していき、儒教思想の影響で、女性は慎重に行動せざるを得なかった。17世紀には、儒学者たちが女性の教育を中心に立論を行い、『姫鏡』を著した中村惕斎、『夫人教え草』を著した藤井懶斎、そして『女大学』を著した貝原益軒が有名である。平安時代に拡大していた仏教の教えでは、女性は自分の意志及び文学に対する好奇心を維持していたが、儒教思想では大きく逆転した。儒教思想に大きく反映された貝原益軒の『女大学』の主なポイントは下記の通りである。

1．女子は自分の親元で教育させるがよい。女子は読み書き、数学のほかは勉強する必要がない。
2．女子は日頃から、日常生活全般にわたり教育させよ。
3．女性は多弁に用心せよ。慎重に言葉を選び、悪い意味の言葉を言うな。
4．女性は自分の立ち居振る舞いを大切にせよ。男らしく野蛮な振る舞いをするな。
5．女性はきちんと整然とした心と身だしなみを維持せよ。
6．女性は日暮れから夜明けまで家庭事情を放棄するな。
7．既婚女性は夫を天として服従せよ。夫を主君として仕えよ。

８．妻は舅を実の親より大切にし、服従せよ。

９．妻は夫兄弟や親戚を敬愛せよ。

2)　３種類に分類された「謙譲語」は、５種類の分類では謙譲語Ｉと謙譲語IIに分かれている。この違いは、謙譲語Ｉは＜主体となる人物＞（上述のように、相手側である場合も、第三者である場合もある）を立てる敬語である。そして、謙譲語 II は＜相手＞に対して自分側の行為等を丁重に述べる敬語であり性質が異なる。

3)　インドネシア語は、日本語と違い「敬語」という敬意を表す表現はない。その代わり、敬語ではなく相手または場に対する敬意を表すために「丁寧表現」のようなフォーマルな表現を使用する。この表現は口頭か筆記かにかかわらず、公的な場面に用いられている「適切で正しい（Bahasa Indonesia yang Baik dan Benar）」言語変種のひとつであり、インドネシア語の標準語「Ragam Bahasa Baku」である。一方、その対照となる私的な場面に用いられるのは「Ragam Bahasa Nonbaku」という。

Ragam Bahasa Bakuは、講演、会議、研究発表などのような公的な場面で使用され、社会的地位の高い話し相手に対する言語表現である。この表現は、いつどのような場面にも相応しいというわけではない。

日本語の丁寧表現と同様に、頻繁に使用してしまうと相手に距離感や不快感を抱かせることもある。

Ragam Bahasa Bakuの特徴は、接頭辞・接尾辞の有無、人称代名詞、主語・述語の有無に表われる。以下の表は、Ragam Bahasa Bakuの例としてインドネシア語の人称代名詞を表わしたものである。

インドネシア語と日本語における人称代名詞の比較

	インドネシア語	日本語
一人称	Saya→Aku	私→僕・あたし・俺
二人称	Anda→Engkau（文学的）, kau, kamu	あなた→あんた、君、お前
三人称	Beliau→Dia	彼、彼女

引用文献

蒲谷宏・金 東奎・高木美嘉（2009）『敬語表現ハンドブック』大修館書店

菊池康人（1997）『敬語』講談社学術文庫

青木保（2007）『敬語の指針』
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200601/column/018.htm
（2020年2月17日閲覧）
張夢園（2016）『日本語の女性語について：少女漫画に見る女性語の推移』梅光学院大学.
http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/bg/metadata/1602（2020年5月19日閲覧）
東照二（1997）『社会言語学入門―生きた言葉のおもしろさにせまる』研究社
文化庁（2006）『平成18年度「国語に関する世論調査」の結果について』
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/h18/
（2020年5月10日閲覧）
Chaer, Abdul（2012）『Linguistik Umum』Penerbit Rineka Cipta.
Chaer, Abdul dkk（2010）『Sosiolinguistik : Perkenalan Awal』Penerbit Rineka Cipta.
Ide, Sachiko（1986）『*Sex Difference and Politeness in Japanese.*』Muyton de Gruyter.
Ide, Sachiko（1989）『*Formal Forms and Discernment: Two Neglected Aspects of Linguistic Politeness*』Multilangua Vol.8 No 2-3.
Ide, Sachiko（2004）『*Exploring Women's Language in Japanese*』Oxford University Press.
Japanese Woman's Commision（2009）『*Japanese Women(1893)*』Kessinger's Rare Reprints.
O'Neil, P.G（2008）『*Japanese Respect Language*』Tuttle Publishing.
Shomad、Ahmad（2017）『Makalah Kalimat Formal dan Informal』
https://chadliq.blogspot.com/2017/08/makalah-kalimat-formal-dan-informal.html
（2020年5月19日閲覧）
Wikipedia「華麗なる一族（2007年のテレビドラマ）」
https: //ja. wikipedia. org/wiki/%E8%8F%AF%E9%BA%97%E3%81%AA%E3%82%8B%E4%B8%80%E6%97%8F_（2007%E5%B9%B4%E3%81%AE%E3%83%86%E3%83%AC%E3%83%93%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%9E）
（2020年1月17日閲覧）

Intan Putri Iswanto
（高知大学日本語・日本文化研修留学生・
ブラウィジャヤ大学人文学部日本語学科学生）